

石畑遺跡発掘調査説明資料

2006 年 8 月 4 日（金曜日）
財団法人 山形県埋蔵文化財センター



縄文時代晩期の注口（ちゅうこう）土器

1 調査の概要

石畑遺跡は、昭和 30 年頃当地区在住の上浦善助氏によって発見されたものです。同氏宅地内から多数の縄文土器等が出土し、『南陽市史』で取り上げられたことにより、市民に知られるようになりました。

この度の調査は、主要地方道山形南陽線改良工事に伴って行われるものです。昨年度県教育委員会が試掘調査を行った結果、事業区の内 2,000 m²について記録保存が必要となり、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を行うことになったものです。

2 立地と環境

遺跡は、南陽市北部の金山地区に所在し、吉野川右岸の段丘に立地します。川の両岸には尾根が迫っており、中世以降はその地形を利用して砦などが築かれました。また、北の吉野地区から当地区にかけて鉾山が点在しており、近年まで操業していました。

石畑遺跡の周辺には、いくつかの遺跡があります。対岸に三入山遺跡、西側の山沿いには、金座館跡などがあります。三入山遺跡は、縄文時代前期や平安時代の遺物が出土しています。金座館跡は、往時、金の採掘地であったことから名付けられたようで、時代は不詳ですが、砦的な施設であったと思われます。

3 遺構と遺物

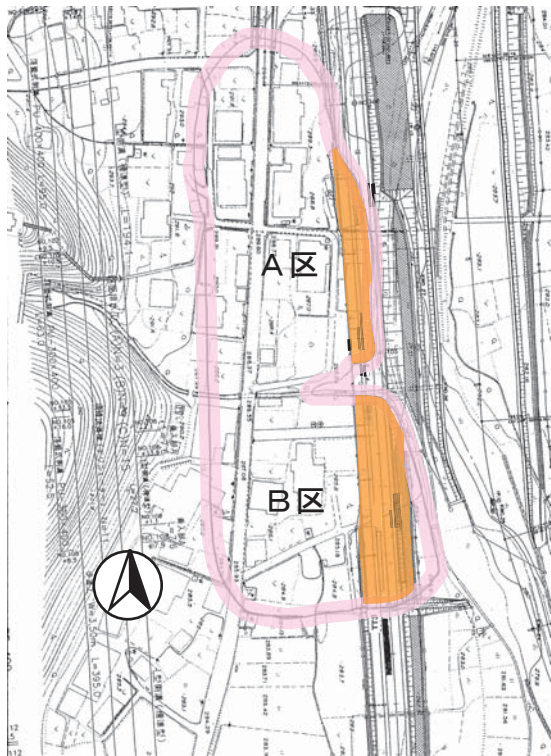
調査の便宜上、水路の北側を A 区、南側を B 区としました。

遺構は、総数約 300 ほどが検出されており、土坑・溝跡・沢跡・ピット群などがあります。

調査要項	
遺 跡 名	石畑遺跡（いしばたけいせき）
遺 跡 番 号	南陽市M-1
所 在 地	南陽市金山川西字石畑
調査委託者	山形県
調 査 原 因	主要地方道山形南陽線改良工事
調 査 面 積	2,000 m ²
現 地 調 査	平成 18 年 5 月 15 日～8 月 10 日
遺 跡 種 別	集落跡
時 代	縄文時代、弥生時代、近世
遺 構	土坑、溝跡、沢跡、ピット群、井戸跡
遺 物	縄文土器、弥生土器、石器、土製品、陶磁器、銭貨
調査担当者	調査研究部長 尾形與典 専門調査研究員 伊藤邦弘 主任調査研究員 渡辺淳一（調査主任） 主任調査研究員 押切智紀
調 査 協 力	置賜総合支庁建設部道路計画課 置賜教育事務所・南陽市教育委員会



位置図（国土地理院発行 5 万分の 1）



調査区概要図（S = 1 : 3,000）



縄文土器の深鉢（ふかばち）



縄文時代後期の土器片

土坑とピット群は A 区に、沢跡は B 区に、それぞれ集中して検出されました。

土坑と認められるのは、約 20 基、深さ 50 ～ 60cm のものが一般的ですが、1 m を測る深いものもあります。

A 区は、吉野川に急激に落ち込む地点にあるため、東側はかなり削り取られています。

沢跡は、遺構面下約 1.5m から検出されており、縄文時代にここが生活の場となる以前に埋没したものと考えられます。

遺物は、約 60 箱出土しており、縄文時代の土器や石器が大半ですが、概ね破片で出土しています。縄文土器は後期を主体に晩期や弥生時代のものも見られます。

石器は、石鏃や石匙などが見られます。頁岩を用いたものがほとんどですが、鉄石英を用いた石鏃なども見られます。

この度の調査では、調査区が河岸段丘の川縁にあるため、生活の拠点となる居住域から外れているようです。地形的に見ると、生活の拠点は、調査区の西側の高位段丘にあったのではないかと考えられます。



縄文時代晩期の土器片



縄文時代中期の土器片



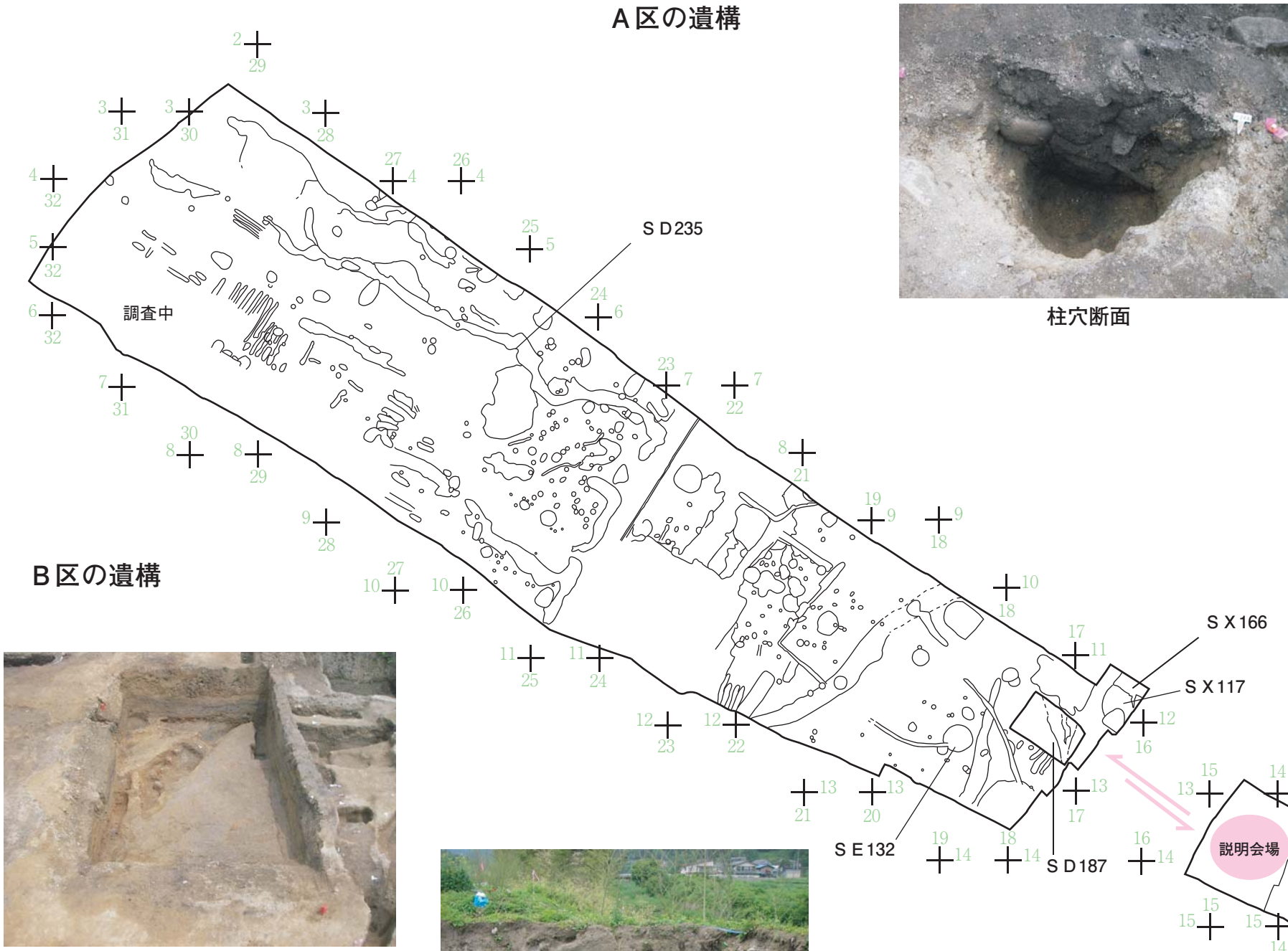
石器（石鏃）



鉄石英

石畑遺跡遺構配置図・遺構写真

A 区の遺構



柱穴断面



柱穴群完掘状況



土坑断面



A 区検出状況



A 区北完掘状況

B 区の遺構



溝跡出土状況



性格不明遺構出土状況



井戸跡完掘状況



溝跡精査状況

